

令和6年度 事業報告

概 況

令和6年の我が国経済は、緩やかな回復が見られるものの、世界的な金融引締め等が続き、海外景気の下振れが景気を下押しする依然として厳しい情勢であった。先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、景気の持ち直しが続くことが期待されたが、ウクライナ及び中東地域をめぐる情勢の影響、物価高騰や円安の進行、供給面での制約など、不透明感が漂う1年となった。

こうした状況ではあったが、中央・地方競馬は着実に開催され、その売り上げについては、中央競馬が前年比101.2%、地方競馬が同104.4%と共に好調が続いた。

せり市場取引については、全市場が通常せりとオンラインビッドを並行運用するハイブリッド方式で開催された。市場成績は、当歳・1歳・2歳の全市場合計で上場頭数3,260頭、売却頭数2,757頭、売却率84.5%と売却頭数が過去最高となり、年間総売上額も昨年を大きく上回る561億9,350万円と過去最高を記録した。市場取引の主体となっている1歳市場の売上額は、345億2,834万円であった。

また、サラ系統の生産頭数は7,925頭で、9年連続で前年を上回った。

そうした中、本協会は軽種馬生産地をはじめとした地域社会の健全な発展に資するため、公益目的事業の柱である種馬事業をはじめ、日本産馬の海外販路拡大を目的とした国際交流、伝染病発生による被害防止を図るための防疫体制整備、生産技術の高度化等に対応するための人材養成、軽種馬改良情報システム(JBIS)を活用した競馬と生産に関する情報提供等の事業を実施するとともに、生産者の経営を支援するための各種補助、生産者やせり市場支援、農業経営指導等の事業を行った。

I. 公益目的事業

地域社会の健全な発展に資するため、全国の軽種馬生産地域において、地域経済の安定化に寄与し軽種馬生産の安定的維持・発展と競馬の健全な発展を図る以下の事業を実施した。

1. 種馬事業

軽種馬の資質改良と安定的生産等を推進するため、以下の事業を実施した。

1) 種牡馬の整備

(1) 資源調査

米国、英国、愛国、仏国、新国、豪州および国内において新規導入種牡馬候補の調査を行った。

(2) 種牡馬の導入

愛国からソットサス、内国産のサブノジュニア、レッドベルジュール、ステラヴェローチェを導入した。

馬名	品種	毛色	生年	産地	血統	配置場所
ソットサス(※)	サラ	栗毛	2016	仏国	シューニ スターレツツシスター	静内種馬場
サブノジュニア	サラ	黒鹿毛	2014	静内	ウヰス ^g イ ^g ラス サブノイ ^g ズ ^g マ	七戸種馬場
レッドベルジュール	サラ	鹿毛	2017	安平	デー ^g フ ^g イ ^g ハ ^g ク ^g ト レ ^g ッ ^g フ ^g ァ ^g ン ^g タ ^g ジ ^g ァ	九州種馬場
ステラヴェローチェ	サラ	青鹿毛	2018	安平	バ ^g ゴ ^g オ ^g マ ^g イ ^g ハ ^g イ ^g ビ ^g ャ	静内種馬場

(※)静内種馬場入厩は令和7年3月予定

2) 種牡馬の管理

(1) 種牡馬の配置等

本協会所有種牡馬15頭を、全国の軽種馬生産地からの要望や種牡馬の適性を考慮し、各種馬場に配置した。なお、七戸種馬場に配置されたエ

スケンデレヤが3月に死亡したため、クリエイターⅡを静内種馬場から七戸種馬場に移動した。また、シーズン終了後にクリエイターⅡをサウジアラビアのナイフ・アルマスード・スタッドに売却した。

(別表1 種牡馬の配置等 参照)

(2) 種牡馬による種付

本協会所有種牡馬による種付頭数は、526頭で前年比64頭減であった。

(別表2 日本軽種馬協会所有供用種牡馬種付牝馬頭数 参照)

(3) 種牡馬の飼養管理及び調査研究

年間を通じて「種牡馬管理指針」に基づき管理するとともに、調査データを収集し、収集結果を各種馬場において活用した。また、臨床獣医学及び栄養学の面から検査と調査研究を行い、種牡馬側からの受胎率向上に努めた。

3) 配合

配合申込および種付料支払いに関わる事務手続の簡素化・効率化について検討した結果、令和7年度分配合については事前配合申込を行わず、すべての種牡馬の申し込みを種付当日まで受けることとした。

4) 種馬場施設の整備

種馬事業の円滑な推進のため、各種馬場において老朽化した施設の整備等を実施した。

5) 種馬事業利用の側面支援

(1) 種馬場遠隔地種付牝馬輸送費・飼養管理費助成

本協会種牡馬に種付するために遠距離輸送を行う繁殖牝馬の所有者に対して、輸送及び飼養管理に要する経費の一部を助成した。

(単位：千円)

輸送費	飼養管理費	附帯事務費	計
(54件) 4,718	(20件) 2,100	162	6,980

(2) スタリオンニュースの発行

本協会所有種牡馬の産駒成績等の最新情報を提供するため、「JBBA スタリオンニュース」を32回発行し、軽種馬生産者等に送付した。

6) 委員会の開催

種牡馬管理配合委員会を10月と11月に2回開催した。

7) その他国際協力

海外からの種牡馬の貸付要望実績はなかった。

8) 引退馬の環境改善

我が国の引退軽種馬を取り巻く環境の改善・向上を図るため、公益財団法人ジャパン・スタッドブック・インターナショナルが実施する引退名馬繫養展示事業に対し助成した。(助成額500千円)

9) 軽種馬医療の安定化

緊急時における軽種馬への輸血用血液の確保と獣医療従事者の負担軽減を目的として、静内・七戸・九州の各種馬場に導入されたユニバーサルドナー3頭の飼養管理を行い、静内種馬場繫養のユニバーサルドナーから2頭(種牡馬1頭、繁殖牝馬1頭)に対して供血を行った。

2. 国際交流

変動の大きい軽種馬需要に対処し、軽種馬生産を長期的に安定・発展させるため、海外における日本産馬の販路の拡大・定着を図る以下の事業を実施した。

1) 海外流通の促進

(1) 海外市場および海外取引に関する調査

ドバイおよびサウジアラビアの競馬主催者と面談および通信を行い、今後の当地でのプロモーション活動の実施に向けた調査および連絡調整を行った。

(2) 海外顧客誘致活動

本協会海外向け英語版ホームページを活用して、海外顧客に対する日本産馬の情報提供やせり市場宣伝に努めた。また、北海道市場における海外用せり名簿作成経費を補助した。さらに、日本のせり市場への参加意欲高揚策等の実施に要する経費にも補助した。

令和5年度事業繰越分

(単位：千円)

補助項目	補助額	備考
プロモーション活動費	6,144	
在外エージェント雇用	2,213	
計	8,357	

令和6年度事業分

補助項目	補助額	備考
海外用せり名簿作成費	6,393	1事業主体（5開催分）
在外エージェント雇用	2,200	
計	8,593	

合計 16,950千円

(3) 生産・育成技術供与

海外競馬関係者に日本産馬の飼養管理技術を付与することを目的とした技術研修及び技術指導の実績はなかった。

(4) 検討会

事業の効果的な推進を目的とした検討会を2月および6月に開催した。

2) 軽種馬輸出対策

(1) 軽種馬国内輸出環境の整備

輸出検疫施設の維持・管理を適切に行うとともに、老朽化の著しい胆振輸出検疫施設の施設整備を実施した。

(2) 検疫施設の運用

海外への速やかな軽種馬輸出のため、胆振輸出検疫施設において、下記のとおり23頭の輸出検疫を行った。

令和6年度 輸出検疫施設利用実績

施設名	利用期間	輸出国	利用頭数
胆振	2月28日～4月3日	マレーシア	3
胆振	5月7日～5月23日	マレーシア	3
胆振	6月9日～6月17日	韓国	3
胆振	7月1日～7月16日	豪州	7
胆振	8月23日～9月1日	米国	6
胆振	12月17日～12月24日	英国	1

3. 防疫体制の整備

伝染病発生による軽種馬の被害防止を図るため、発生及び流行による影響が大きい伝染性疾病の防疫に係る以下の事業を実施した。

1) 伝染性疾病に対する防疫体制の整備

(1) 馬伝染性子宮炎（CEM）の侵入・蔓延防止

馬伝染性子宮炎の再侵入防止、早期発見及び蔓延防止を目的として、国内で繁殖に初供用する牝馬及びCEMを疑う繁殖牝馬に対してPCR検査を実施する場合の検査費用等に対する助成と、馬伝染性子宮炎発生時の対応等についての講習会等を開催する馬伝染性子宮炎自衛防疫普及啓発事業を実施した。

令和5年度事業繰越分 (単位:千円)

補助項目	補助額	備考
PCR検査	8,370	6事業主体

令和6年度事業分

補助項目	補助額	備考
PCR検査	2,896	1事業主体

合計 11,266千円

(2) 3種混合ワクチン等の接種

軽種馬の感染症の蔓延を防止するため、馬飼養者に競馬場及びトレーニングセンター入厩前の育成馬に接種する3種混合ワクチン(馬インフルエンザ、日本脳炎、破傷風)及びゲタウイルス感染症ワクチンと繁殖牝馬に対する馬インフルエンザワクチンの接種に必要な経費を補助した。また、ローソニア感染症ワクチンの馬への適応について薬事承認に向けて臨床試験および免疫原性試験を実施した。

令和5年度事業繰越分 (単位:千円)

補助項目	補助額	備考
育成馬等予防接種	20,156	6事業主体

令和5年度事業繰越分

	委託費	備考
ローソニア感染症ワクチン臨床試験	8,811	1事業主体

2) 防疫情報の収集・伝達

伝染性疾病の蔓延を防止するため、海外悪性伝染病や監視伝染病、届出伝染病(主として馬鼻肺炎、馬パラチフスによる流産等)の発生情報等を各関係

機関に通報した。また、内外の防疫情報を随時収集し関係者へ伝達した。

3) 診療の支援

軽種馬の診療体制が整備されていない地域の診療を支援するため、九州軽種馬協会との契約により九州種馬場において管内の一般診療を行った。また、九州種馬場の獣医師職員を鹿児島県家畜畜産物衛生指導協会に指定獣医師として登録し、馬鼻肺炎ワクチンの接種及び啓発を行った。

4. 人材養成

軽種馬の生産育成に携わる人材不足や、生産技術の高度化や経営体質の強化に対応するため、牧場就業者及び獣医師等の技術指導者の養成を行う以下の事業を実施した。

1) 研修の実施

(1) 牧場就業者の養成

牧場での就業を希望する者を対象とした軽種馬生産育成技術者研修を1年間、牧場の従業員等を対象とした軽種馬後継者研修を10日間実施した。

令和6年度は、3月に軽種馬生産育成技術者研修第45期生15名が修了し、4月より第46期生16名が入講し研修を受講している。また、軽種馬後継者研修は11月に8名に対して実施した。

軽種馬生産育成技術者研修募集に際しては「中央競馬開催時のターフビジョン及びグリーンチャンネルにおける募集映像配信」「インターネット上の募集広告配信」「牧場就業促進事業 BOKUJOB の活用」「体験入学会」等を実施した。その結果、令和7年度入講予定の第47期には91名の応募があり、新たな増員策である寮外生4名を含む20名を選考した。

(2) 技術指導者の養成及び技術普及

強い馬づくりに取り組む担い手経営のニーズに対応し得る技術指導者を養成し、技術普及を行うため、以下の研修を「軽種馬経営高度化指導研修（軽種馬経営技術指導者養成・技術普及）事業」において実施した。

また、専門技術者に対する自己研鑽の場として施設を提供した。

(別表3 研修実施概要一覧表参照)

① 技術指導者の養成

生産地の専門技術者に対し、高度な生産技術を付与するための先端技術研修として、獣医療技術、装削蹄技術、栄養管理技術等を総合化した

生産育成に関する研修、技術講習等を実施した。

軽種馬生産牧場の経営指導を担う者に対し、経営管理技術に関する研修、技術講習等を実施した。

健康管理においては、繁殖に係る先進技術を有する獣医師、および運動器疾患に係る先進技術を有する獣医師を米国から招聘し、北海道で講演及び実技研修会を開催した。

また、軽種馬生産牧場の経営指導を担う者に対し、経営管理技術に関する研修、技術講習等を実施した。

② 技術普及

牧場関係者に対し、生産育成・経営管理等に関する技術の普及のための研修会や講演会等を実施した。

また、馬産地において喫緊の課題となっている担い手支援のための対策として、経営継承者及び後継者を対象とした研修を実施した。

2) 研修受講支援

軽種馬生産地での生産育成の担い手及び獣医療従事者不足解消のため、就業体験研修参加及び受入に要する経費の一部を補助した。

令和5年度事業繰越分		(単位:千円)
補助項目	補助額	備考
研修受講支援	404	4事業主体
令和6年度事業分		
補助項目	補助額	備考
研修受講支援	1,100	4事業主体
		合計 1,504千円

3) 巡回指導等の実施

問題を抱え改善を望む牧場等を対象として、獣医師、装蹄師、栄養管理技術指導者等の専門技術者を中心とした巡回指導チームを必要に応じて編成し、当該牧場に対し、その指導チームが問題の改善に当たる実践的な研修を実施した。

また、草地の土壌養分及び牧草の飼料成分の分析を委託し、その分析結果に基づく改善指導を実施した。

令和5年度事業繰越分

(単位:千円)

	委託費	備考
飼料・土壌分析	12,263	1事業主体

令和6年度事業分

	委託費	備考
飼料・土壌分析	7,020	1事業主体

合計 19,283千円

4) 生産育成及び経営管理に関する調査、データの収集・分析・提供

生産技術を向上させ強い馬づくりに資するため、軽種馬の生産育成に関する情報（健康管理技術、肢蹄管理技術、栄養管理技術、草地管理技術、経営管理技術、生産費等）を収集・分析し、関係者からのニーズが強い情報を随時提供した。

肢蹄管理の向上を図るため、子馬の肢蹄異常及び装削蹄療法に関する実態調査のデータ集積・分析を行い、その結果を基に専門技術者や牧場関係者への研修を実施するとともに、生産地の肢蹄管理における3D技術の活用について調査・検討を行った。

また、軽種馬用草地の牧草及び土壌の分析データを蓄積した。

経営管理技術研修においては、生産費及び経営収支等に関する生産地調査を委託し、軽種馬経営の経営実態データを蓄積した。

さらに、馬学講座番組「ホースアカデミー」を制作し、グリーンチャンネルで放映するとともに、関係機関及び希望者へDVDを配付した。

令和5年度事業繰越分

(単位:千円)

	委託費	備考
生産地調査	15,527	1事業主体
肢蹄管理研修	3,000	1事業主体
計	18,527	

5) 技術普及指導等への補助

5団体が実施した軽種馬生産育成技術者を対象とした研修に要する経費を補助した。

また、軽種馬生産者の飼養管理技術の向上に資するため、軽種馬牧場管理ソフトSUKOYAKA等による客観的な数値を用いた合理的な繋養馬の管理に不可欠な体重計等の導入に必要な経費の一部を、8団体を対象に馬体重計を補助した。

令和5年度事業繰越分

(単位:千円)

補助項目	補助額	備考
生産者等に対する技術普及	111	1事業主体
生産者等に対する技術普及(※)	-180	1事業主体
技術普及(馬体重計)	2,305	1事業主体
計	2,236	

令和6年度事業分

補助項目	補助額	備考
生産者等に対する技術普及	2,090	4事業主体
技術普及(馬体重計)	6,287	7事業主体
計	8,377	

合計 10,613千円

(※)補助元である地方競馬全国協会とJBBAの事業年度の相違による減額

6) 専門技術者等による生産者指導への補助

専門技術者等を活用して生産者に対し定期的な指導はなかった。

7) 軽種馬生産技術総合研修センターの整備・管理

専門技術者に対する自己研鑽の場として軽種馬生産技術総合研修センターを提供するとともに、施設の整備・運営を実施した。

令和5年度事業繰越分

(単位:千円)

	事業費	備考
研修センター整備管理費	11,222	

令和6年度事業分

	事業費	備考
研修センター整備管理費	13,372	

合計 24,594千円

8) 検討会の開催

軽種馬経営高度化指導研修事業実施に係る総括的な検討会を実施した。

令和5年度事業繰越分

(単位:千円)

	事業費	備考
検討会の開催	1,115	

令和6年度事業分

	事業費	備考
検討会の開催	891	

合計 2,006千円

9) 生産育成技術者研修施設の整備

人材養成事業用厩舎新築第2期工事を実施した。(事業費 479,233 千円)

5. 競走馬の情報提供

軽種馬の資質改良、生産・流通の改善に必要な国内外の各種情報を収集整理し、関係者や一般市民へ広く提供するため、以下の事業を実施した。

1) 改良情報の整備と提供

生産地及び競馬サークル等へ軽種馬の資質改良の指標となる情報を総合的に提供した。

(1) データ整備

国内の産駒出生データ、日本中央競馬会、地方競馬全国協会及び公益財団法人ジャパン・スタッドブック・インターナショナルから提供されるデータ、海外に輸出された産駒及び現役繁殖馬に関連する海外馬の競走成績、並びにせり市場取引成績等を集積し、これらの整合性を維持する整備を行い、本協会が運営する軽種馬改良情報システム (JBIS) に情報を蓄積した。

(2) 情報サービスの提供と普及

①一般利用

Web サイト「JBIS-Search」により、国内外の生産地、競馬サークル、一般市民を対象とし、軽種馬に関する各種情報を提供するとともに、同サイトの認知度向上と利用定着を図るため、WEB サービスによるせり市場のライブ中継や、日本馬が出走する海外主要競走の現地レポートなど、引き続きコンテンツの多様化を積極的に展開した。

令和6年のJBIS-Searchの利用数は、ページビュー数で39,756,498件(前年48,374,863件)、訪問者数は5,660,183件(前年6,090,505件)であった。前年から数値が減少しているが、令和5年8月に実施したJBIS-Search全体のリニューアルにより、1ページに表示される情報量が増加し、ページ自体が少なくなった影響と考えられる。

②専門利用

「軽種馬統計」「全国馬名簿」及びせり市場の開催に必要な「せり名簿(和文・欧文)」を作成するためのデータを、JBISから関係者に提供した。

③システムの更新

JBIS 全体のサーバーOS 及びミドルウェアのサポート期限（2027 年 1 月）を迎えることから、これらを更新するためのシステム開発を実施したほか、既存のシステムやアプリケーションについて、必要な更新を行った。

2) 競走馬のふるさとに関する情報収集・提供

生産地の状況を広く紹介するため、全国の主要生産地で集積した生産地情報を JBIS と連携した WEB サービスを提供した。

また、生産地を訪れる競馬ファン、旅行者等に対して軽種馬生産育成牧場の見学案内や見学マナーの指導活動を行うため、全国 6 カ所の軽種馬生産地に競走馬のふるさと案内所及び連絡センターを委託により運営し、市民と軽種馬生産地をつなぐ活動を行った。

令和 6 年の競走馬のふるさと案内所ホームページのページビュー数は 4,846,407 件(前年 4,944,394 件)、訪問者数は 1,436,868 件(前年 1,403,012 件)であった。また、令和 5 年に引き続き、第 13 回目となる馬産地見学ガイドツアーを実施した。

令和 5 年度事業繰越分

(単位:千円)

	委託費	備考
競走馬のふるさと案内所運営費	7,647	6 事業主体
令和 6 年度事業分		
	委託費	備考
競走馬のふるさと案内所運営費	21,753	6 事業主体

合計 29,400 千円

3) 統計資料等の作成・配付

(1) 機関誌「JBBA NEWS」

毎月 10 日に発行し、軽種馬生産者、関係機関、関係団体及び一般市民に国内外の軽種馬生産と競馬に関する情報を提供した。

(2) 軽種馬統計

公益財団法人ジャパン・スタッドブック・インターナショナルと共同で、JBIS を利用して 3 月に発行し、関係機関や団体へ配付した。

(3) 全国馬名簿

JBIS を利用して 12 月に発行し、軽種馬生産者、関係機関や団体へ配付した。

4) 広報活動

本協会の事業内容、生産地の状況、国内外のせり市場の状況、国内競馬に関する情報、種牡馬のプロフィール及びランキング等を JBBA NEWS 及びホームページを通じて提供し、生産に関連する情報を広く周知することに努めた。

II. 相互扶助事業

軽種馬生産の維持・発展のため、軽種馬生産者やせり市場主催者を対象とした以下の事業を実施した。

1. 生産関連支援

1) 生産基盤となる草地の整備

良質な競走馬を生産育成するため、以下の取組みに要する経費の一部を補助した。

- ・草地の適切な維持管理による生産性の向上及び昼夜放牧への対応を目的とする草地の造成・改良及び放牧柵の整備
- ・草地（採草地・放牧地）の整備・改良に必要な機械等のリース導入
- ・新たに取得または賃借した土地に存する生産設備等の補改修

令和5年度事業繰越分

(単位：千円)

補助項目	事業参加者数 (牧場数)	補助額
草地の造成・改良、放牧柵の整備	74	229,842
機械リース	8	30,323
生産設備等の補改修	7	28,416
計	89	288,581

令和6年度事業分

補助項目	事業参加者数 (牧場数)	補助額
草地の造成・改良、放牧柵の整備	98	301,885
機械リース	29	69,475
生産設備等の補改修	7	32,032
計	134	403,392

合計 223 牧場 691,973 千円

2) 繁殖牝馬の資質改良

繁殖牝馬の資質改良を促進するため、生産者が資質に優れた繁殖牝馬群を整備するため必要となる優良繁殖牝馬を導入する場合、牝馬の購買に要する経費の一部に対して補助した。

令和5年度事業繰越分 (単位：千円)

補助項目	導入頭数	補助額
繁殖牝馬導入	71	188,087

令和6年度事業分

補助項目	導入頭数	補助額
繁殖牝馬導入	6	11,500

合計 77頭 199,587千円

3) 繁殖牝馬の流通活性化

繁殖牝馬せり市場取引による繁殖牝馬の流通活性化を図り、優良な競走馬を安定的に供給できる体制を整備するため、繁殖牝馬のせり市場開設者が、現役を引退する競走馬等の繁殖牝馬せり市場への上場を促進するための対策を実施する場合に必要な経費の一部を補助した。また、市場取引における繁殖牝馬の預託を推進するため、繁殖牝馬の預託受け入れ希望に関する情報提供等の対策を実施した。

令和5年度事業繰越分 (単位：千円)

補助項目	補助額	備考
繁殖牝馬流通	10,217	1事業主体

4) ファームヘルパー利用組合への支援

生産者の過重労働環境を緩和するため、ファームヘルパー利用組合の運営に要する経費の一部を助成した。(助成額113千円)

5) 生産者団体等への支援

地域の生産者団体及び後継者で組織する団体が行う、生産性の向上及び自らの資質向上等に向けた取り組みに対し助成した。(助成額1,252千円)

6) 繁殖牝馬用途変更の奨励

低能力繁殖牝馬の淘汰促進と生産構造の改革を促進するため、生産の廃業又は他作目との複合経営を推進することを条件に、繁殖牝馬の用途変更をした生産者に対し奨励金を交付する事業への申請はなかった。

7) 飼料等高騰への緊急対策

軽種馬の飼養に関する飼料、資材、敷料の価格高騰に伴う経営圧迫を緩和するため、軽種馬生産者に対して給付金を交付した。

令和6年度事業分 (単位：千円)

	補助額	備考
給付金	298,080	828件、360千円/件

8) 災害等への緊急支援

大規模な災害等により被害を受けた軽種馬生産者が、安定的な経営の継続を図るため、復旧整備に対する取り組みに要する経費の一部を補助する事業への申請はなかった。

2. せり市場支援

せり市場の運営改善や参加促進を図るため、以下の事業を実施した。

1) せり市場運営・振興対策

(1) せり市場開催の円滑化

せり市場の円滑化及び活性化を図るため、せり市場を開催した場合に要する様々な経費（せり名簿・市場ポスターの作成費・馬房レンタル費・動画配信等）の一部を補助した。

令和6年度事業分 (単位：千円)

補助項目	補助額	備考
せり市場運営円滑化	68,999	4事業主体

(2) せり市場の運営システム支援対策

せり市場の円滑な運営を図ることを目的として、各種情報の周知及び不測の事態並びに購買者の利便性向上のため、市場開設に必要な各種システム（せり市場表示機器・せり市場オンラインシステム）の貸付、運用、保守並びに改良を行った。（運用等経費 29,100千円）

令和6年度事業分 (単位：千円)

補助項目	補助額	備考
せり市場システム支援	930	4事業主体

(3) 生産流通情報の提供

軽種馬の生産流通情報の提供に要する経費の一部を補助した。

令和6年度事業分 (単位:千円)

補助項目	補助額	備考
生産流通情報提供	5,133	1事業主体

(4) せり市場流通促進対策

せり市場における流通促進を図るため、せり市場主催者に対し、せり市場で売却された競走馬の所定の競走における勝馬馬主への市場取引賞の交付に要する経費の一部を補助した。

① 地方競馬2歳限定競走の勝馬馬主への市場取引賞の交付に要する経費の一部を補助

令和5年度事業繰越分 (単位:千円)

補助項目	補助額	備考
市場取引賞(地方2歳)	14,630	110件

令和6年度事業分

補助項目	補助額	備考
市場取引賞(地方2歳)	41,629	313件

合計 56,259千円、423件

② 中央競馬及び地方競馬の2歳重賞競走の1～3着馬馬主への市場取引賞の交付に要する経費の一部を補助

令和5年度事業繰越分 (単位:千円)

補助項目	補助額	備考
市場取引賞(2歳重賞)	885	3件

令和6年度事業分

補助項目	補助額	備考
市場取引賞(2歳重賞)	439	2件

合計 1,324千円、5件

(5) 軽種馬市場施設の整備

軽種馬市場の円滑な推進のため、各せり市場における必要な施設の整備に要する経費の一部を助成した。(助成額99,523千円)

2) せり市場公正取引確保・上場促進対策

(1) トレーニングセール上場馬のアナボリック・ステロイド検査

トレーニングセールでの公正な取引を推進するため、せり市場主催者が、上場予定馬の検査結果の開示を目的に、アナボリック・ステロイド検査を実施した場合、当該検査に要する経費を補助した。

令和6年度事業分		(単位：千円)
補助項目	補助額	備考
アナボリック・ステロイド検査	1,540	2事業主体

(2) 市場上場馬の情報開示の推進

せり市場取引の透明性と信頼性を高めるため、生産者が市場上場馬のレントゲン検査及び上部気道内視鏡検査の情報開示(レポジトリー)をした場合、その経費の一部を補助した。

令和5年度事業繰越分		(単位：千円)
補助項目	補助額	備考
獣医学的馬体検査	2,600	4事業主体

令和6年度事業分		
補助項目	補助額	備考
獣医学的馬体検査	60,522	4事業主体

合計 63,122 千円

(3) 市場上場馬の馴致育成補助

せり市場で適正な評価を得るため、生産者が1歳馬をせり馴致業者に一定期間以上の預託をした場合、その経費の一部を補助した。

令和5年度事業繰越分		(単位：千円)
補助項目	補助額	備考
1歳馬せり馴致	1,588	3事業主体

令和6年度事業分		
補助項目	補助額	備考
1歳馬せり馴致	93,048	3事業主体

合計 94,636 千円

(4) 長距離輸送補助

せり市場への産駒上場を促進するため、生産者に対し、遠隔地のせり市場に

上場するための長距離輸送に要する経費を補助した。

令和5年度事業繰越分 (単位:千円)

補助項目	補助額	備考
長距離輸送	438	4事業主体

令和6年度事業分

補助項目	補助額	備考
長距離輸送	6,748	4事業主体

合計 7,186千円

3) 牝馬流通対策

牝馬の所有意欲の高揚と牝馬限定競走の維持拡大を図るため、地方競馬の2歳牝馬限定競走の勝馬馬主に副賞を贈呈した。

令和5年度事業繰越分 (単位:千円)

補助項目	補助額	備考
勝馬馬主への副賞	4,100	13競走

令和6年度事業分

補助項目	補助額	備考
勝馬馬主への副賞	18,000	67競走

合計 22,100千円、80競走

3. 農業経営指導

1) 軽種馬生産育成強化資金への利子補給

軽種馬生産に係る施設の近代化等による経営改善を図るため、生産者が資金を借り受け、優良繁殖牝馬の導入又は生産施設の整備等を行う場合、融資機関に一定の利子補給を行った。

令和5年度事業繰越分 (単位:千円)

補助項目	補助額	備考
利子補給	9,543	融資8件、138,800千円

2) 軽種馬経営強化改善資金への利子補給及び保証基盤の強化

平成17年から21年の間に軽種馬経営強化改善資金を貸し付けた融資機関に対し利子補給を行った。また、借入者に対する利子補給事務及び指導等

に係る業務委託を実施した。保証債務に係る代位弁済を行う基金協会に対し、交付金を交付する事業への申請はなかった。

令和5年度事業繰越分		
補助項目	補助額	備考
利子補給	15,367	
令和5年度事業繰越分		
	委託費	備考
利子補給事務及び指導	6,993	3事業主体
令和6年度事業分		
	委託費	備考
利子補給事務及び指導	225	1事業主体
合計 利子補給 15,367 千円、委託費 7,218 千円		

3) 軽種馬経営継承資金への利子補給および保証基盤の強化

将来にわたって馬産地の安定的維持・発展を図るため、経営の継続が見込まれる経営継承者を対象に軽種馬経営継承資金の融通を行う融資機関等に対して、利子補給及び保証債務に対する支援等を行った。また、借入者に対する利子補給事務及び指導等に係る業務委託を実施した。(当年度新規借入者なし)

令和5年度事業繰越分		
補助項目	補助額	備考
利子補給	7,063	
令和5年度事業繰越分		
	委託費	備考
利子補給事務及び指導	4,135	3事業主体
合計 利子補給 7,063 千円、委託費 4,135 千円		

Ⅲ. 競馬主催者及び関係団体との連携・協力

競馬及び軽種馬生産地の活性化を支援するため、競馬主催者等と連携協力し以下の事業を実施した。

1. 会長賞の贈呈

中央・地方競馬の平地G I ・ J p n I 競走(32競走)勝馬の協会会員、並び

に地方競馬の指定重賞競走(2競走)勝馬の馬主に対して、会長賞を贈呈した。
また、会員の生産馬を牧場単位でとらえ、その成績の優秀なものに対して表彰する河野洋平賞を、WingFarmに贈呈した。

(別表4 特別指定競走会長賞贈呈者一覧 参照)

2. 地方競馬活性化支援

1) JBC 競走への協賛

一般社団法人ジャパングリーダーズカップ協会に対して、本協会種牡馬の種付権利を贈呈した。

2) ホッカイドウ競馬への協賛

ホッカイドウ競馬スタリオンシリーズ競走について、対象競走(6競走)の勝馬の馬主に対して、本協会種牡馬の種付権利を贈呈した。

3) 牝馬競走活性化対策

牝馬競走の振興と牝馬の入厩促進を図るため、地方競馬で行われるグランダム・ジャパンについて、各協賛団体から拠出された賞金を該当の馬主、調教師に授与した。

また、佐賀競馬のル・プランタン賞競走及びヴィーナスカップ競走の勝馬の馬主に対して、本協会種牡馬の種付権利を贈呈した。

3. 地方競馬生産牧場賞への協力

1) 地方競馬生産牧場賞代理受領

以下5競馬場から交付される生産牧場賞を代理受領し、対象競走1着馬の生産牧場に支給した。(74件 23,465千円)

(単位：千円)

主催者名	対象件数	受領額計
特別区競馬組合	31	13,785
神奈川県川崎競馬組合	15	3,950
埼玉県浦和競馬組合	13	1,890
千葉県競馬組合	14	3,810
岐阜県地方競馬組合	1	30
合計	74	23,465

2) NAR 生産牧場賞交付

地方競馬で施行されるダートグレード競走及び2歳新馬競走並びにネクス

トスター競走の1着馬から3着馬の生産牧場に対し生産牧場賞を交付した。
(867頭 154,125千円)

令和5年度事業繰越分 (単位：千円)

対象競走	交付頭数	交付額計
ダートグレード競走	16	7,800
2歳新馬競走	26	8,000
合計	42	15,800

令和6年度事業繰越分

対象競走	交付頭数	交付額計
ダートグレード競走	95	23,650
2歳新馬競走	703	109,095
ネクストスター競走	27	5,580
合計	825	138,325

4. 海外競馬、生産関係団体との交流

国際サラブレッド生産者連盟(ITBF)の総会をJBBA主催により5月18日から5月26日にかけて日本において開催し、総会、獣医師会議、北海道生産地ツアー、オークスおよびダービー観戦などを含むプログラムに、日本を含め20か国から約70名の参加があった。(事業費94,182千円)

また、ITBFのエグゼクティブ・コミッティーのメンバーとして、同コミッティーのWEB会議およびITBFとIFHA(国際競馬統括機関連盟)による生産に関する事項を協議するためのワーキンググループの会議にそれぞれ参加した。

5. 軽種馬せり市場流通促進への協力

せり市場取引による公正取引を推進し、適正価格形成を図るため、本協会が所有する北海道市場建物をせり市場主催者に貸与したほか、本協会が後援する全国各地のせり市場に職員を派遣し、開催支援に従事させるなどの多面的な支援を行った。

6. 軽種馬生産業における人材確保への協力

公益社団法人競走馬育成協会が実施する生産育成牧場就業者参入促進事業の事務局構成員として、牧場就業促進ウェブサイト「BOKUJOB」の企画協力や「オンライン相談会」の運営等、生産地への若年層の就業促進や広報活動に努めた。

7. 品評会等の支援

生産地で開催された品評会（三石、平取）に対して会長賞を贈呈するほか、審査員の派遣を行った。

IV. 関係機関への要請活動等

1. 生産等に関する協議会

日本中央競馬会と「生産等に関する協議会」を開催し、本協会から提示したJBBA 協議事項に沿って、今後の生産対策に関する課題等について、2回の協議を行った。

2. 地方競馬と生産に関する協議会

地方競馬全国協会と「地方競馬と生産に関する協議会」を開催し、地方競馬の開催状況、馬主登録状況、競走馬生産振興事業の実施概況、令和6年度のせり市場概況等について報告・協議した。

また、軽種馬生産地の実情について地方競馬主催者の理解を深めるために実施している「地方競馬主催者軽種馬生産地現地検討会」を昨年につき、開催した。